

第1回海とくらしの史料館のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和2年7月29日（水）19時00分～21時00分

会 場 上道公民館 集会室

出席者【委員会委員】

宮永 貴幸委員（鳥取県水産試験場 場長）

景 愛子委員（境港水産振興協会 お魚ガイド）

境港市観光協会 福留 康次課長

（境港市観光協会 事務局長 古橋 剛委員の代理）

檜山 盛生委員（境港総合技術高等学校 教諭）

金森 俊治委員（境港市小学校校長会 会長）

面谷 明俊委員（海とくらしの史料館利用者代表）

渡部 万里子委員（ 〃 ）

島田 洋子委員（ 〃 ）

【事務局】

市教委（松本教育長・黒崎生涯学習課長・竹内文化体育係長・門脇主事）

市産業部（木村次長兼観光振興課長）

市文化振興財団（佐々木常務理事・佐々木次長・大池館長）

欠席者【委員会委員】

野々村 崇委員（境港青年会議所 理事長）

<日程>

1. 開会
2. 教育長あいさつ
3. 委嘱状交付
4. 委員長選出及び副委員長の指名
5. 説明事項
 - (1) 委員会の開催目的・スケジュール等
 - (2) 現状報告
 - (3) 課題、過去に実施した会での意見
6. 意見交換
7. 閉会

<会議録（要旨）>

◆ 1 は省略

◆ 2. 教育長あいさつ

教育長 海とくらしの史料館は今年で開館26年を迎える。施設の老朽化に加え、入館者は減少傾向にあった。しかし、ここ数年は館長を始めスタッフの皆さんの尽力により、さまざまなイベントを行うなどして入館者数はやや回復しつつある。一方、議会からは当館のメインのテーマである「海」「くらし」をどう生かしていくのか（特に「くらし」のあり方）、その中でどうにぎわいを求めていくのか、もっと他の機関（例：水産試験場、観光協会など）と連携を図っていく必要があるのではないかという指摘をいただいている。これらを受けて、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきながら、当館を市民に愛される施設にしていきたい。

◆ 3 は省略

◆ 4. 委員長選出及び副委員長の指名

・委員長について

※委員からの推薦はなし

事務局 境港市観光協会の古橋委員を推薦。

委員 特に異議なし。

・副委員長について

事務局 欠席の古橋委員に代わり利用者代表の面谷委員を指名。

面谷委員 当館は自宅の近くにあり、昔から親しんできた場所なのでこのような形で携わることができるのは感慨深い。さまざまな意見を出して、今後の当館のあり方について考えていきたい。

◆ 5. 説明事項

(1) 委員会開催の開催目的・スケジュール等

事務局 以下の①～③について説明

① 委員会の開催目的

② 主な議題（予定）

③ 委員会の開催スケジュール

※委員から特に質疑なし

(2) 現状報告

事務局 以下の①～⑧について説明

- ① 入館者推移（年度別、令和元年度の月別）
- ② 入館料推移（年度別）
- ③ 館内施設・設備
- ④ 常設展示
- ⑤ 令和元年度開催のイベント、展示スペース提供、出張展示、その他
- ⑥ 利用者の声
- ⑦ 今後の計画
- ⑧ 現在の運用方針

委員 地元の小学生が来ることはないのか。

事務局 ほとんどない。米子市、倉吉市などから校外学習等で来てくださることはある。

(3) 課題、過去に実施した会で出た意見

事務局 以下の①～④について説明

- ① 建物の老朽化について
- ② 展示に関する課題
- ③ その他の課題
- ④ 過去に実施した会で出た意見

※委員から特に質疑なし

◆ 6. 意見交換

- 委員 ・市内の小学生の利用がないという話はその通りである。小学校3年生が、「昔の暮らし」の学習で昔の生活用具等を実際に見て学ぶ機会があるが、当館はその対象の用具が少ないため、現在は山陰歴史館（米子市）で学習をしている場合が多い。山陰歴史館は交通のことを考えたらロスが多いので、当館で「昔の暮らし」のコーナーがもっと充実すれば市内の小学生の利用も増えるのではないかと。
- ・水族館ではなく、ハクセイというのが非常に珍しいので楽しいという気持ちにはなるが、また行こうとはならない。利用者の声にも「魚が動かなくてつまらない」という意見があるので、実際に動いている姿を見られると（例：スマートフォンと連動するQRコード）ハクセイのコーナーでしっかり立ち止まって見てくれる人が増えるのではないかと。

- 委員 ・ 県外からの旅行者へ向けてガイドを行っている（魚が獲れている場所、新しくできる市場の説明など）。秋には水産業の勉強で兵庫県や岡山県の小学生にガイドを行っている。ガイドの際には、必ず海とくらしの史料館のパンフレットを同封したり、ガイド中に「こういった施設もあります」と紹介したりしている。
- 委員 ・ 2度以上行きたいかというのが微妙なところ。自分も久しく行っていなかったので先日館長に案内してもらった。ハクセイは綺麗だが、展示のコンセプト（観光客を取り込みたい？市民向け？）がはっきりしない。それは境港の魚についての展示スペースがひとつも無いからである。境港では200種類ほどの魚が獲れるが、どの魚が獲れるのかが全くわからない。
- 委員 ・ 館内に音がない。音楽もそうだが、ところどころで押すと展示の説明をしてくれるボタンがあるとよい。
- 委員 ・ あと2年ほどすると市場も完成する。そちらでも一般のお客様向けの展示スペースを作る予定なので、そこも流れを作っていきたい。
- 委員 ・ 自分も昔は足を運んでいたが、展示内容はハクセイがメイン。代わり映えが無く、足が遠ざかってしまっていた。
- 委員 ・ 境港やその近隣の海に関係する展示がないのが寂しいなと感じる。種類ごとに現在ハクセイを展示しているが、海外の魚もいるので例えば海ごと（インド洋、大西洋、東シナ海、太平洋、山陰の海など）にしてはどうか。せっかく色々な魚がいるのでそこで海を表現できないか。地元の子どもたちにこのまちの海や水産業の素晴らしさを伝えられる施設になってほしい。
- 委員 ・ 新型コロナウイルスの影響で観光客が少なくなっているが、今は教育旅行に関して例年と違う動きが見られる。通常は関西などに行くが、コロナの感染拡大のため今年の秋に関しては近場で、といった傾向である。ただ、そういった客を誘致するとなるとどうしても旅行会社が間に入ってくる。館長のお話で「過度に観光に偏った運用はしない」というお話があったが、教育施設という運用方針なら子どもたちを取り込んでいくべき。
- 委員 ・ ガイドをつけるとなると人間的な問題も生じてくるが、やはり展示に関する説明が欲しい。
- 委員 ・ イベントは中庭でのイメージがあるが、館内で行えるイベント（例：ワークショップなど体験もの、映像設備を使った学習スペース）が

もっと増えるとよい。

- ・外観がとても立派だが、中で何を行っているのかがわかりにくい。オープンな感じが欲しい。
- ・他の施設との連携（例：直売センター、水木しげる記念館、水木しげるロード、SANKO夢みなとタワー）
- ・イベントとの連携（例：桜まつり）
- ・GWや盆は台場公園を水木しげるロードの駐車場として使用している。そういったお客様を誘致したい。
- ・近々、市内の観光施設の利用者がインターネットで答えられるアンケートの作成に取り組む予定。当館も取り入れられればと考えている。
- ・共通チケットや無料入館者のあり方についてどう考えているのかが知りたい。こちらも大々的に宣伝してよいのかほどほどに売っていくのか悩んでいるところ。
- ・ミュージアムショップの導入を検討してほしい。伯州綿、弓浜紺のグッズ等を置いたらどうか。以前SANKO夢みなとタワーにあったが、なくなってしまったためどこで買えるのかの問合せが来ることがある。

委員

- ・学校で漁業や海洋生物を教えている視点から当館を見ると、地域の人々が漁業や海洋生物に興味を持つことのできる、魅力のある場所という風に感じる。
- ・ハクセイにこだわっているという点がネック。実際に魚たちが海でどんな生活をしているのかハクセイでは伝わらない。映像で置き換えるなどの方法を併せて行うとより学べる施設になる（漁法、海の違いによる魚の違い）。以前卒業生が水中映像を撮り、後輩たちの学習に役立ててくださいと提供してくれたことがあった。自分でイメージすることと実際の映像には大きな違いがある。「ふだん見られない」「ここでしか見られない」がもっと当館に増やせないか。（例：3D映像）
- ・貿易に関する歴史等も時系列で（どのように境港が栄えてきたのか）学べる展示等も欲しい。

委員

- ・キャンドルナイトを毎年当館で行っているが、館長始めスタッフの皆さんのホスピタリティが良さ。イベントがやりやすい。少ない人数でこれだけのイベントを回し、来館者数も増えているのはすごいこと。
- ・開館当時（ミュージアムショップを開いていた時期もあったし、「小

学生は必ず当館に行く」という時代もあった) からよく知っている。できた当時と今は違うのだから、コンセプトの見直し、議論が必要。

- ・今は「居場所」(市民が安心していられる場所、刺激がもらえる・新しいものが得られる場所) が強く求められている。「図書館があるから」ではなく、市内の公共施設が一体となってそういう場所になっていくべき。当館も小さいがどこかほっこりできる場所なので、そういった場所になり得ると思う。
- ・運営にリピーターの市民が関わったりすることで、「協働のまちづくり」にもつながる。そのためには繰り返し来てもらえる工夫が必要。極端なことを言えば市民から3割しか取っていないのであれば入館料は取らずに、ワークショップやイベントなど活動が必要な時にのみお金をいただくなどすればよいのでは。
- ・小さい子どもはとても当館を楽しむ(みなと丸、スタンプラリー)。
- ・グッズがとても充実している。しかし、受付で注文する形だとわざわざ言いに行く人は少ないし、売り切れていたこともあった。自動販売機のような買いやすい状況にすればスタッフが少なくても対応できるし、ふらっと立ち寄って購入する人が増えることも期待できる。
- ・今は誰でも「インスタ映え」する場所で写真を撮り、撮った写真をSNS等を見て新しいお客さんの確保に繋がることもある。良い写真スポットを数か所作り、案内するとよい。
- ・子どもは展示をあまり見ないが、大人は熱心に見ている。2階の額に入ったはく製はあまりよく見ずにスルーしてしまう。
- ・階段に手すりがない。授乳室もないという話があったが、子育て世代に向けた運用をするなら必要。建物自体の改修すべき点は、小さいところから少しずつ直していけばよい。
- ・友人(東京在住。境港が好きで年に数回来る際には必ず当館にも来館してくださっている) から、今後の当館のあり方について意見・激励をいただいた。こういったファンがいるのだということも是非知っておいてほしい。

委員

- ・魚の「止まっている」姿を見られることは魅力だが、映像などをプラスして魚の「生きている」姿を見られたらもっと良くなる。
- ・館内が海になるような演出がほしい。プロジェクションマッピングなどを使えないか。
- ・イベント案:海くらしおさかなスケッチ大会(館内を見て回って好きなハクセイをスケッチする)、海くらしに関わる絵本の読み聞か

せ、「海くから海釣り」(館内で勉強し、実際に海岸に釣りに出かける)、「おさかな検定 in 海くから」(市内で行っている検定を当館で行う、合格者をボランティアスタッフとして当館で来館者に解説を行ってもら)、「海くからバックヤードツアー」(ふだんの入館では見ることのできない場所を案内)、「ナイト海くから」(夜に光る魚などを取り入れ、夜ならではの演出・館内の雰囲気を楽しむ、キャンドルナイトの運営委員会さんとも連携しては)、「海くからクラフトデー」(海に関する工作:スノードームの海版、まぐろのぼり、流木を使ったアート、貝を使ったアクセサリ、サメの歯を使ったキーホルダー)(くらしに関する工作:機織り、綿繰り)

- ・他機関との連携案:総合技術高等学校(タッチプール、学生さんに案を出して企画・実行してもら、加工食品を当館で販売)、市民図書館(夏休みのおさかな研究)
 - ・年間行事とつなげる(七夕、ハロウィンなど)
 - ・みなと丸の運転席を開放できないか。子どもは喜ぶし、親にとってもよい写真スポットになると思う。
 - ・「食べる」「買う」をプラスできないか。
 - ・「誰でも」楽しめる施設か。小さい子ども、目の不自由な方、高齢の方、外国の方などにとって、不自由な部分がないか今一度見直す必要がある。
 - ・広報活動も重要。館長がDARAZ FM等に出演できるとよい。
 - ・来るたび新しい発見がある・知識が身につく施設になってほしい。
- 委員
- ・境港市民がどれだけ利用しているのか知りたい。海とくらしの史料館自体を知らないという方も多くいらっしゃるのではないか。
 - ・観光客をターゲットにすると、リピーターは期待できない。ハクセイを見て「こんなもんか、すごかったな」で終わってしまう。何回も来ている人はゼロに近いのでは。また誰か連れてもう一度来ようとはならない。
 - ・「ハクセイが展示されています」でとどまらない展示が必要。先ほど「境港に関する展示がない」という話があったが、そういった地域に関することを盛り込むには他機関との連携が必要。民具のことも含め、当館が全て抱え込まなくても、分担すれば何か新しいことができるのではないか。
 - ・昨年、八尾市立歴史民俗資料館(大阪府)へ行った際、入口のテレビで綿に関する解説の映像(作り方や織り方)を選択して窓口で申請し、見られるというシステムを取り入れていた。参考にできるの

では。

- 事務局
- ・当館は「海」「暮らし」という2つの大きなテーマで展示を行ってきた。平成24年頃に2階にあった民具の常設展示をやめ、必要な時のみ出す（小学生が社会科学習で見学に来るときなど）形をとるようになった。当館のスペースでは、この2つのテーマを両立して充実させることが難しい。市では、旧誠道小学校の今後の使い道を検討している。松江市美保関歴史・生活体験史料館（中学校の跡地を利用）のように民具を当館とは別の場所で展示するというのもひとつのあり方と考えているが、委員の皆さんの意見を頂戴したい。
 - ・今回の委員会はイベントや展示などソフトの面について主に意伺っている。授乳室や会議スペースのことなど、ハードな面については敷地が限られている。住宅地に囲まれている関係で、増築等も難しい。開館当時の職員から聞いた話によると、第2展示室の上部分が設計上は床を敷いて使える（建築基準法をクリア）ようになっている。将来的に床を敷いてスペースを増築して利用できるようになっているが、その利用方法についてもご意見を伺いたい。
- 事務局
- 鳥取県立博物館ほどの広さがあればもっと量を充実させられるかもしれないが、今の広さだとどちらもということが難しい。今ある民具は収蔵庫にしまっている状態。
- 委員
- 収蔵庫の中にしまっている民具を見たことがあるが、系統立てて集めてみると実は何もないなと感じた。部分的にぽつんとある状態。民具を展示するといっても、見て当時の生活がわかるような展示は今の中身ではできない。
- 委員
- 魚関係の民具はあるのか。
- 事務局
- 網等は若干あるが、委員の発言通りトータルで漁業を表せるものはない。
- 委員
- ・かろうじて綿に関することは一連の流れを表せることができるかな、というのが現状。以前綿の展示を行った際は、道具等を他の市から借りた。民具に関しては各小学校に少しずつあるのではないか（境小学校はある）。そういうものを集めてくれば系統立てて展示ができるのでは。
 - ・「暮らし」の展示のあり方について課題とされているが、「漁業に関する暮らし」「海に関する暮らし」にしてはどうか。「香美町立ジオパークと海の文化館」（兵庫県香美町）が参考になる。漁業に関する暮らしの展示にすれば、魚の展示ともつながる。
 - ・スペースが足りていないというのは大きな問題で、事務局の出した

2階スペースの増築などで改善されればソフト面でもできることが増えると思う。

事務局 (補足)「香美町立ジオパークと海の文化館」について

兵庫県香美町にある町営の施設。山陰海岸のジオパークのジオラマ、地元(北前船で栄えた地域)の海について、漁具・漁法についての展示。特に漁法の展示にはカニかごの立体模型があり、わかりやすい展示がされている。また、香美町で獲れた魚が最終的にどんなものに加工されているのか(缶詰など)という展示もある。獲れてから消費者に届くまでの一連の流れで展示がされており、とてもわかりやすい。

事務局 委員の皆さんからの「境港に関する展示」がないというご意見はごもっともである。今後こういった施設を参考に考えていきたい。

委員 境港で獲れる魚やそれがどのように私たちに届くのかという展示を考えていくには、ますます他機関との連携が重要になってくる(例:旬の魚など)。

委員 水産振興協会でも境港の魚についての説明などはパンフレットやパネルにしている。

委員 パンフレットだけでは伝わらないのではないか。パネルのようなスペースを当館に設置するとよい。

委員 市場にそういった展示をつくる予定だが、市内で同じような内容のものが重複するのはどうなのか。

委員 境港市の観光施設の1番の欠点は線がないこと。線をつなぐものは機関同士の連携なのではないか。道路などハードなつながりだけでなく、情報のつながりも求められる。「自分のところでこの情報があるから出さない」ではなく、「こっちに行けばもっとこんな情報がある」という連携の仕方をしていきたい。

事務局 当館のメインは第2展示室のチョボリン(マンボウ)をはじめとしたハクセイの常設展示だと思うが、これは開館当時、専門業者に依頼しレイアウトしていただいたもの。26年経過して、内容自体は変えられないかもしれないが、展示の方法を変えていかなければいけないかもしれないと考えている。第2展示室のケースに入った展示についても同様に意見を伺いたい。

委員 ハクセイについて今回はネガティブな意見が多いが、逆にハクセイでこれだけしっかり展示している施設は珍しい。中途半端にするよりこれは生かしていくべき。問題は見せ方。一緒くたに並べるよりは離れた方がよいとも思う。工夫すれば生きてくる(例:SANKO夢みな

とタワー「日本一低いタワー」)。ポジティブに活かす見せ方やキャッチコピーを考えるとよい。

委員 ハクセイの良さは「どこからでも見られる」ところ。写真では一方向からしか見られないが、ハクセイならどの角度からでもじっくり見ることができる。その良さを生かしたい。境港という地域を展示では感じられない。

委員 深海魚が上の方であって、浅いところに生息するサメが下の方に展示されている箇所があり、海や海洋生物のことをよく知っている人が見ると非常に違和感が強い。もっと海を表現してほしいと感じた。後ろに海の写真を入れたりするのはどうか。

委員 ケース内の展示を見ると、「いろいろな標本があるなあ」で終わってしまう。他の施設だと、ハクセイがひとつぶら下がっていると目を引くが、種類が多すぎるが故に活かされていないように感じる。種類ごとに整然と並べるより、もっと海の中をイメージして深さごとに色々な生き物がいたりする展示の方が楽しいのではないか。小さいものの展示が課題ではないか。

委員 深さごとに自分が上がり下がりする通路（スロープ？）があると面白いのではないか。

委員 南から北に向かって海の水温も変わるので、魚たちの色合いも変わる。そこも表現できれば、より深い学びを得られる展示になる。

事務局 8月のイベントの講師、鈴木香里武氏は水族館のプロデュースも行っているので、意見を伺って第2回以降に共有したい。

委員 サメに関する化石、絵、模型などという展示も借りるなどして導入してはどうか。県西部の人が東部のものを見に行く機会を設ける。市民の学習にも役立つし、外部の集客も期待できる。

◆ 7は省略